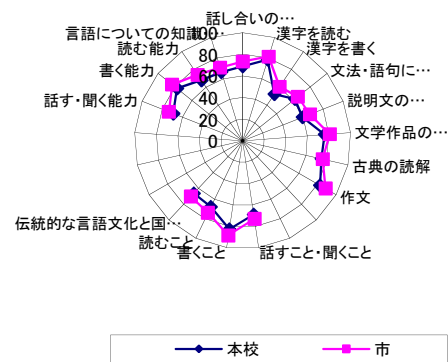


宇都宮市立宝木中学校 第2学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	69.0	73.3
	漢字を読む	78.7	81.5
	漢字を書く	52.2	60.6
	文法・語句に関する知識	61.9	65.2
	説明文の内容を読み取る	59.5	66.9
	文学作品の内容を読み取る	76.1	80.9
	古典の読解	74.7	76.0
	作文	82.7	88.6
観点別	話す・聞く能力	69.0	73.3
	書く能力	77.7	83.4
	読む能力	67.8	73.9
	言語についての知識・理解・技能	66.6	70.9



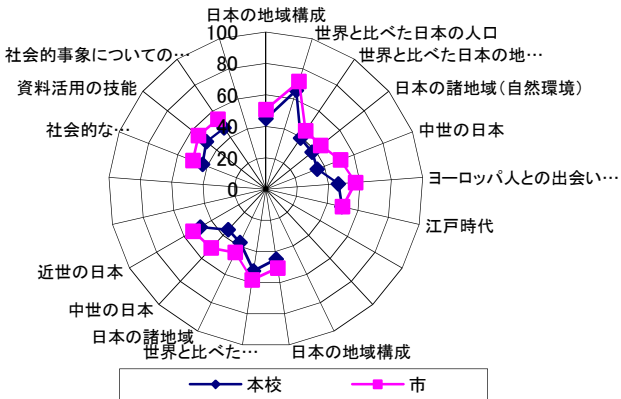
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	平均正答率が市よりも4. 3ポイント下回っていた。 また、今年度も「聞き手に理解してもらうための話し方の工夫の聞き取り」が一番低く、6. 8ポイント下回った。その他の聞き取りは、多少下回ったものの、ほぼ市の正答率と同じであった。	今年度も昨年と同様に聞き取りテストを行い、また発表の際には聞き取った内容をメモする機会を設けた。しかし、まだ結果にはつながっていないため、今後も継続して聞く力を育てる指導していきたい。
漢字	平均正答率が「漢字を読む」で2. 8ポイント、「漢字を書く」で8. 4ポイント下回った。 今年度も、読みに関しては市の正答率を上回る漢字があったが、書きでは昨年度よりもかなり正答率を下げてしまった。	やはり、今年度も読めるが書けない、という結果となった。漢字は定期的に書く指導をしているが、単元ごとに漢字テストを設けるなどして、より意欲的に漢字を覚えていけるように指導したい。
文法・語句に関する知識	平均正答率が市よりも3. 3ポイント下回ったが、昨年度と比べて0. 5ポイント平均に近づいた。 敬語についての理解が一番低く、5. 7ポイント下回った。用言や多義語については、市の平均とほぼ同じであった。	用言は2年生の文法で最も時間を割いた単元だったため、理解度が上がったと思われる。 しかし、敬語は生活していく上で必要な知識である。今後も、授業にとどまらず日常的に言葉遣いの指導していきたい。
説明文の内容を読み取る	平均正答率が市よりも7. 4ポイント下回り、昨年度とほぼ変わらない数値である。 「文章の内容をとらえて、それを具体的な事例に当てはめる」は市の平均を上回っているが、その他の項目では10ポイントも下回っているものもあった。	文章の内容をとらえた上で、具体的な事例に当てはめられているのに、構成や展開をとらえられないというのは本来あり得ない。説明文自体に苦手意識を持つ生徒が多いため、じっくり文章を読めていないのが課題である。今後も時間をかけて段落ごとの内容を読み取り、展開に注目させていくように指導したい。
文学作品の内容を読み取る	平均正答率が市よりも4. 8ポイント下回ったものの、昨年度よりも1. 8ポイント平均に近づいた。 心情をとらえる問題はほぼ平均に近い数値だが、登場人物の様子をとらえる問題が9. 4ポイント下回っていた。	昨年度と同様、登場人物の心情については理解できていたが、様子がとらえられないということは、文中の言葉を注意深く読んでいないということである。情景描写など、間接的な表現も注目できるように指導していきたい。
古典の読解	平均正答率が市よりも1. 3ポイント下回った。昨年度は出題されなかったため、比較はできないが、最も平均に近いものである。どの項目も1ポイント程度の差であった。	仮名遣いについての指導は細かく行ってきたので、その結果が表れたといえる。内容もほぼとらえられていたが、今後はより理解が深まるように、読み取りにも力を入れて指導していきたい。
作文	平均正答率が市よりも4. 3ポイント下回っていて、昨年度よりも1. 2ポイントさらに下がった。 自分の立場や、その理由を明確に書くことについての項目が6ポイントずつ下回っていた。	昨年度は根拠が書けていながら、3段構成にならなかったことが課題であったが、今年度は全く逆の結果が出た。授業では構成を意識した指導をしてきたが、今後はバランスよく、立場と根拠を明確にしつつ構成を整えていけるように指導していきたい。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	日本の地域構成	44.8	50.7
	世界と比べた日本の地域的特色	52.5	58.2
	日本の諸地域	37.6	44.6
	中世の日本	35.1	51.0
	近世の日本	48.1	53.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	43.2	49.8
	資料活用・技能	48.3	54.7
	社会的現象についての知識・理解	47.1	53.9



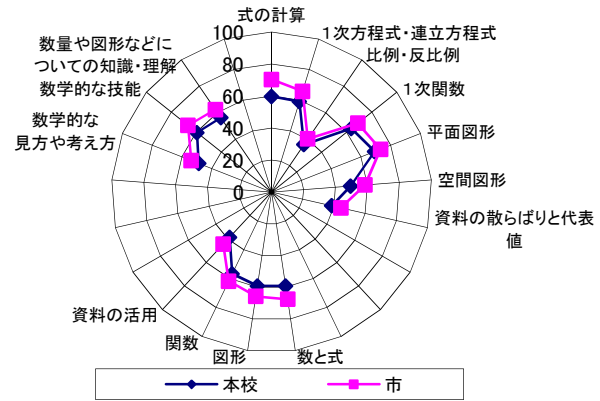
★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	日本の地域構成	市の平均正答率から5.9ポイント下回っている。日本の都道府県の位置と名称、都道府県庁所在地についての理解は市の平均を上回る。しかし、生距方位図法から日本と同緯度に位置する国を問う問題では市の平均を大きく下回っている。	単純な資料の読み取り、活用についてはほぼ対応しているものの、見慣れない資料に対して活用する力が不十分である。 基礎的・基本的な知識を定着を図りつつ、社会的な思考・判断・表現の力を高めたい。また、資料活用・技能を向上させるために積極的に資料を活用する場面をつくり、考えたり表現する時間を用意する。基礎的・基本的な知識を定着させるために授業の初めに行う前時の内容の復習テストを確実に実施するとともに、単元を大観することができる時間を確保する。
	世界と比べた日本の地域的特色	市の平均正答率から5.7ポイント下回っている。日本の情報通信網についてのグラフの読み取りに関する問題では市の平均を上回っている。また、日本の少子高齢化や過疎に関する問いは市の正答率とほぼ同じである。それに対して世界地図から人口密度の高い国を読み取る問題や国内の時間距離を表す思慮の読み取りでは市の平均より10ポイント以上下回る。	
	日本の諸地域	市の平均正答率から7.0ポイント下回っている。九州地方のカルデラを答える問題では市の平均とほぼ変わらないものの、沖縄の伝統的な家が工夫されている理由を説明するために適切な資料を選ぶ問題では市の平均より10ポイント以上下回る。	
歴史	中世の日本	市の平均正答率から15.9ポイント下回っている。日明貿易についての理解が不十分であった。特に永仁の徳政令が出された背景について資料を読み取る問題では市の平均を25ポイント下回っている。相続の特徴が読み取れなかったこと、史料がどの時代のものか結びつかないことが原因と考えられる。	2学年で履修した内容については市の平均正答率から大きく下回ることではなく、むしろ上回っている項目もある。1学年で履修した内容で下回る項目があることから、授業では理解しているものの、基本的な知識の定着が不十分であることがわかる。また、複数の資料の組み合わせから読み取ったり、時代の特徴を示す史料を選ぶことは苦手である。 そこで、基礎的・基本的な知識を定着させるために授業ごとの確認テストの実施や時代を大観させる授業を実施する。
	近世の日本	市の平均正答率から5.2ポイント下回っているものの、参勤交代についての理解・江戸時代における貨幣経済の発達を読み取る問題では市の平均を上回っている。大阪の繁栄について記述する問題で正答率が市の平均を下回った。	また、活用の能力を高めるために、適切な資料を用いて考える時間の確保、話し合い活動や発表活動などの言語活動の充実を図ることが必要である。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	59.3	67.7
	図形	59.3	65.9
	関数	56.7	61.7
	資料の活用	38.5	44.4
観点別	数学的な見方や考え方	48.9	53.9
	数学的な技能	59.5	66.7
	数量や図形などについての知識・理解	56.2	62.3



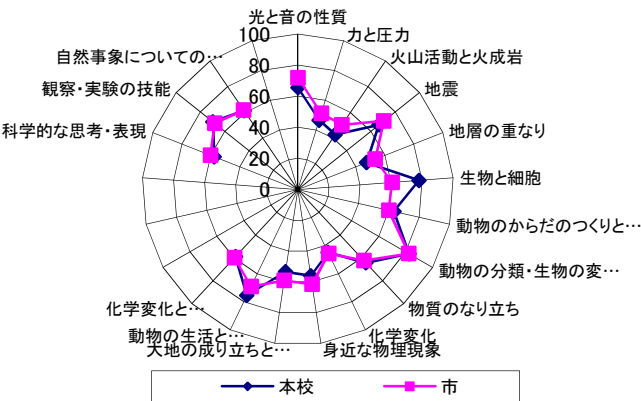
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	市の平均と比較すると全体的に8.4ポイント下回る結果となった。その中でも、「式の計算」の結果の差が顕著である。同類項をまとめて簡単する、乗除の混じった計算といった、今後数学を解いていく上で基幹となる内容の理解があやふやである生徒が目立った。 また、連立方程式の解を求めることに対する正答率が低かった。しかし、文章から正しい方程式を選ぶ内容や、連立方程式の解から問題を選ぶ	計算力が不足していること、特に四則の混じった計算等における約束事が十分に理解できていないことは、今後数学に関わっていく上で大きな問題である。 したがって、今後は今まで以上に計算ドリルを活用して問題練習を繰り返すとともに、生徒が自分の理解が不十分なところを把握し、対策を立てられるような課題を設定していく必要がある。朝の学習の時間、授業の冒頭の時間での演習はもちろんであるが、家庭でも学習を進められるような課題を設定して取り組ませていきたいと考
図形	市の平均と比較すると全体的に6.6ポイント下回る結果となった。その中で、特に1年時の空間図形で学習した、「球の体積」の求め方の正答率が50%未満、また「柱体と錐体の関係」に至っては正答率が2割程度という結果となってしまった。2年時で学習した平面図形の内容の正答率が7、8割を越えていることから考えると、一度学習したことを忘れてしまった、そのときは覚えておいた様に思えたが実はあやふやだった感が否めな	図形の授業に対しての生徒の反応は、その他の計算主体の内容よりも積極的で、よく学習していると感じた。しかし、その後の定着が不十分だったといわざるを得ない。 今後は、今まで通りに作業や考える時間を多く取り入れた授業を進めるとともに、単元が終了した後でも、定期的に確認テストを行ってみたり、話題に出していく必要があると感じた。 さらに、他学年の学習内容と関連させて授業を進めて
関数	市の平均と比較すると全体的に5ポイント下回る結果となった。その中でも、傾きや切片の情報やグラフが与えられている場面から一次関数の式を求める問題の正答率は、市の平均と比較しても大きく劣っていないに対し、2点の座標から式を求める問題の正答率が極端に低くなっている。これは、前述の連立方程式が解けないという状況がそのまま反映される結果となった。	関数に対する苦手意識は、1年時の「比例・反比例」の単元から続いていると感じた。生活に関わる内容を生かして導入から演習へとつなげてきたが、実際の数式になつてしまうとなかなか実践できない状態であった。 まず、関数そのものは理解しているのに計算ができないことによる苦手意識を払拭していくことはもちろん、左記の正答率が比較的高かった学習内容を足がかりとして、理解を深めていく必要があると考えている。
資料の活用	市の平均と比較すると全体的に5.9ポイント下回る結果となった。一般的な度数分布表や相対度数を求める問題に対して、あまり一般的ではない有効数字や代表値などのようになじみがないことばに対する正答率が極端に低いことが反映されたと思われる。	度数分布表を作ることや相対度数を求めることは、数学の学習に限らず一般的に必要な内容なので、今後も継続して指導を続けていくことはもちろんだが、モード、メジアンのような専門的な用語に対しても興味関心を持って取り組めるような教材を与えていきたい。 また、この単元学習内容は、数学に限らず社会科や理科、総合的な学習の時間など他教科領域との関連を図りながら進めていく必要があると考えている。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	身近な物理現象	56.0	61.6
	大地の成り立ちと変化	53.4	59.1
	動物の生活と生物の変遷	75.5	69.2
	化学変化と原子・分子	59.0	59.8
観点別	科学的な思考・表現	57.7	60.3
	観察・実験の技能	69.7	68.3
	自然事象についての知識・理解	61.3	61.8



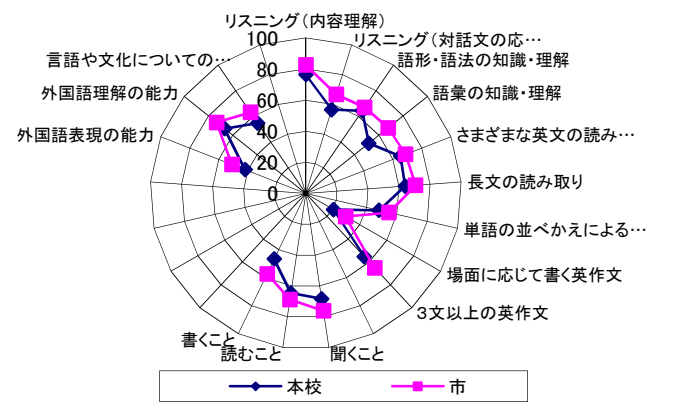
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	市の平均61.6点に比べ、本校の平均点は56.0点と約6点ほど下回る結果となった。特に音の波形に関する問題の正答率が非常に低かった。また、力と圧力に関する内容は、解答に計算を用いるためか正答率が低く、大気圧による身近な現象の例を指摘することことができない生徒も多く見られた。	圧力の計算を苦手としている生徒が多い。計算自体は簡単な乗算・除算なので、基本的な問題演習を繰り返すことで、苦手意識を克服していけるようにしたい。また、理科の学習の内容を、多くの例を挙げて実生活に結びつけながら指導できるようにしたい。 既習内容の定期的な復習を、授業の中でも取り入れていきたい。
大地の成り立ちと変化	火山活動と火成岩、地震、地層の重なりなどの分野において市の平均を下回る結果となった。特に知識・理解と思考・表現を絡めた問題の正答率が低いことが見受けられた。	理科の重要語句やその内容は理解していると思われるが、それを問題の解答として思考・活用することができない生徒が多いようなので、授業では考える状況や意見を出し合う状況を多く取り入れていきたい。 既習内容の定期的な復習を、授業の中でも取り入れていきたい。
動物の生活と生物の変遷	市の平均69.2点に比べ、本校の平均点は75.5点と約6点ほど上回る結果となった。特に生物と細胞の分野は正答率が極めて高かった。唯一正答率が若干下回ったのは、節足動物に関するものであった。 知識・理解と技能を絡めた問題の正答率はとても高く、この領域の知識・理解の定着度は概ね良好であると思われる。	実験が少なく、観察が多い領域であり、理科の語句を覚えるなど知識・理解の観点が必要であるが、生徒たちにはその定着がよくできているように思える。今後も維持していくために、授業の中で重要語句やそれに連なる事象の確認を取り入れていきたい。
化学変化と原子・分子	市の平均59.8点に比べ、本校の平均点は59.0点と惜しくも若干下回る結果となった。実験の技能に関わる問題の正答率は、ほとんどの分野において市平均を上回っているが、記述で答える問題では、正答率が著しく下がる傾向が見られた。	実験の方法や手順、注意点に関しては時間をかけて指導しているので、今後も継続していきたい。 記述で答える問題や、重要語句を漢字で書くことに苦手意識をもっている生徒が多いので、自分の考えを記述で表現することを多く取り入れたり、漢字の間違えの指摘の機会を設けたりしていきたい。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

本年度		
本校市		
領域別	聞くこと	68.476.2
	読むこと	64.768.9
	書くこと	46.757.2
観点別	外国語表現の能力	41.951.0
	外国語理解の能力	66.873.4
	言語や文化についての知識・理解	54.863.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	昨年度、1年生の時には宇都宮市の平均に1.7ポイント差まで迫っていたが、今年度は7.8ポイントも差がついてしまった。「絵を適切に表している英文を聞き取る問題」については、市の平均と同じくらいできているのに対し、「対話の内容を聞き取り適切な応答する問題」や「英文の要点を聞き取る問題」については大きく差が出てしまった。また、「対話の内容を聞き取り資料をもとに英語で答える問題」ができた生徒は全体の3割にも満たなかった。	日頃の授業の中で定期的リスニング問題やリスニングテストを行ったり、英語の指示や説明を行っているため、耳は鍛えられていると思われる。今後も繰り返し指導していきたい。
読むこと	宇都宮市の平均より4.2ポイント下回ってはいるが、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の中では一番よくできた領域ではあった。語形・語法、についてはよかったが、資料や情報をもとにして答える問題や長文読解ができていないことが分かる。	昨年度の反省を生かし、今年度は授業の中で英文の組み立てや読解についての練習を取り入れてきた。その成果が少しずつ表れてきているのではないと思われる。今後は入試に向け、資料をもとにして答える問題や長文読解について力を入れて指導していきたいと考えている。
書くこと	とにかく苦手意識を持っている生徒が多い。単語はもちろんのこと、正しい語順で英文を書くことや自分自身についてまとめた内容で説明する文を書くことは全体の約半数しかできていない。特に、場面に応じて英語で尋ねる文を書く問題については、2割の生徒しか正解していない。	授業の中では、文の組み立てを確認しながら英文を作る練習をしてきたが、まだまだ定着するまでに至らない。教科書の各LESSONの終わりにあるテーマに沿ってまとめた英文を書くページがあるが、自分で考えより先に周りに聞いてしまうという傾向が見られる。間違えてもいいから自分でやってみようという気持ちを持たせて根気強く取り組んでいきたい。